

会長講演

家族看護：新たな発展の方向性と政策への反映

森山美知子

広島大学大学院保健学研究科

家族看護学の本質は何か。何がコアとなるのか。今、勇気をもって、われわれの専門性を打ち出し、社会・看護界・行政にアピールしていく必要があると考える。

家族看護は横断的に各看護領域に関係し、かつ重要なサブ領域となる。ジェネラリストとして押さえるべき Essential Core Competency を明確にすることに加え、各領域の専門看護師などのスペシャリストが持つべき Essential Core Competency と、家族看護の専門家としての Specialist Core Competency が明確にされる必要があるだろう。

家族看護学の中心的関心は、家族のヘルスプロモーションと疾病予防、つまり、家族が健康的に形成され、発達する、そして、疾病の罹患や発症を防ぎ、悪化を予防する、これを支援することだと考える。家族は社会の最小単位として、健康な個人の成長・発達を促す基盤として極めて重要であり、家族看護の専門家は男女が出会い、家族を形成していくそのもののプロセスにも関わっていくことが重要であろう。同時に、家族が成長発達していく過程で、さまざまな健康問題に直面し、また、不適切な家族関係や生活習慣等のために健康問題のリスクを抱える、こういった状況に対して家族のセルフケア能力(問題解決能力)を高めることも、家族看護を行う者の大きな役割であると考えられる。

では、今後、わが国の専門領域としての家族看護はどの方向で発展していくのか、また、発展させていく必要があるのか。開業助産師や養護教諭(学校看護)の働き、地域における保健師の活動、ケースマネジメント、虐待への対応、障害をもつ児とその家族へのケア等、さまざまな活動が行われている。一方で海外に目を向けると、北米では大学院などで精神療法のトレーニングを受けた家族・結婚カウンセラーの資格をもつ看護師たちが家族療法の手法を看護学に取り入れ、病院又は自分でオフィスをもち、家族カウンセリングを実践している。また、米国では幅広い年齢層に対して、看護の視点をもって診断・治療を行うファミリー・ナース・プラクティショナーの活動がある。彼らは、医療過疎地の人々へ質の高いケアも提供している。また、英国スコットランド政府では、プライマリヘルスケアの強化戦略として、家族・地域に焦点をシフトさせた WHO 欧州ファミリーヘルスナース・プロジェクトを打ちだし、精神疾患や慢性疾患中心にファミリーヘルスナースが家庭訪問を行い、家族全体の病気に対するリスクアセスメントをし、予防手段を講じるとともに、病気への対処法などの教育も提供している。

わが国においても、家族看護の専門性を高め、家族をケアする第一線のヘルスプロフェッションとして国民にサービスを提供していくためには、確立された専門職として優れた介入技術をもって家族を支援するミクロな視点と、家族のヘルスプロモーションのための国家/地域規模の政策を導くマクロな視点とが必要となると考える。

そのために、どのような能力と戦略が必要かを考えてみたい。